

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第37週 2023年9月11日（月）～ 2023年9月17日（日） 2023年9月21日作成

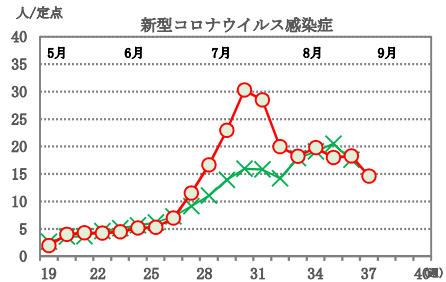
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）新型コロナウイルス感染症

第37週の報告数は1023人で、前週より254人少なく、定点当たりの報告数は14.61であった。

本調査における年齢階級別では、10～14歳（176人）、50～59歳（93人）、30～39歳（83人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（27.67）、県北保健所（24.75）、県央保健所（19.27）であった。

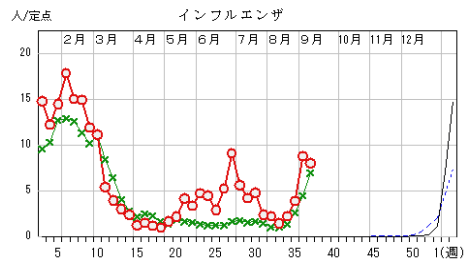


（2）インフルエンザ

第37週の報告数は560人で、前週より56人少なく、定点当たりの報告数は8.00であった。

年齢別では、10～14歳（111人）、15～19歳（54人）、8歳（51人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（31.75）、県南保健所（21.88）であった。

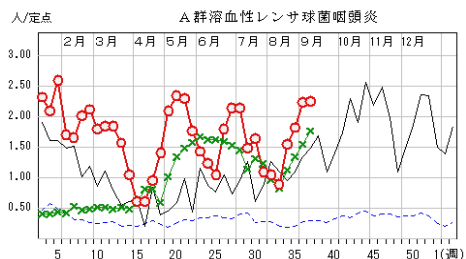


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第37週の報告数は99人で、前週より1人多く、定点当たりの報告数は2.25であった。

年齢別では、10～14歳（20人）、6歳（17人）、9歳（13人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（12.00）、佐世保市保健所（2.33）、西彼保健所（2.25）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【新型コロナウイルス感染症】

第37週の報告数は1,023人で、前週より254人少なく、定点当たり報告数は14.61でした。地区別では、対馬地区（27.67）、県北地区（24.75）、県央地区（19.27）が他の地区より多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。令和5年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が「新型インフルエンザ等感染症」から「五類感染症（定点把握）」に変更されました。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【インフルエンザ】

第37週の報告数は560人で、前週より56人少なく、定点当たりの報告数は8.00でした。地区別にみると、県北地区（31.75）は警報レベル開始基準値「30」を、県南地区（21.88）は注意報レベル基準値「10」を超えています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第37週の報告数は99人で、前週より1人多く、定点当たりの報告数は2.25でした。地区別にみると県南地区（12.00）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2023年第37週の定点当たりの報告数は、「8.00」で前週より減少しました。地区別にみると、県北地区（31.75）の定点当たり報告数は、警報レベル開始基準値「30」を超えており、県南地区（21.88）も注意報レベル基準値を超えています。

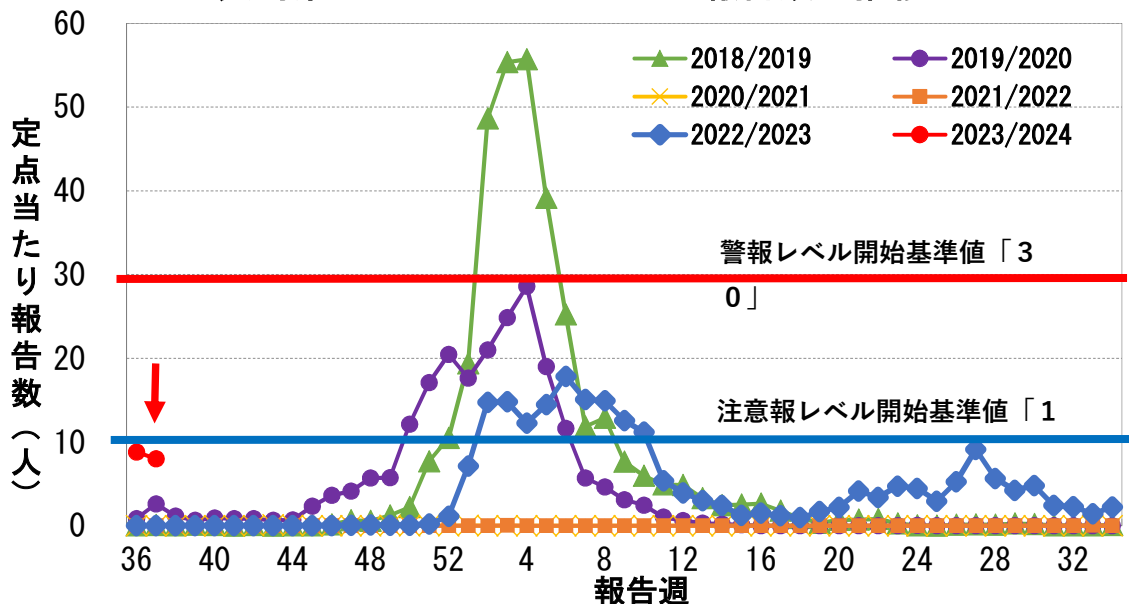
インフルエンザは、2023年第36週（9月4日～9月10日）より、2023/2024シーズンとして集計されます。昨シーズン（2022/2023シーズン）において、長崎県では2022年第52週（12月26日～1月1日）に流行入りして以降、2023年第18週（0.97）を除くすべての報告週で流行の目安である「1.0」を超えた報告数が継続しています。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



★トピックス：梅毒の報告数が過去最多となっています

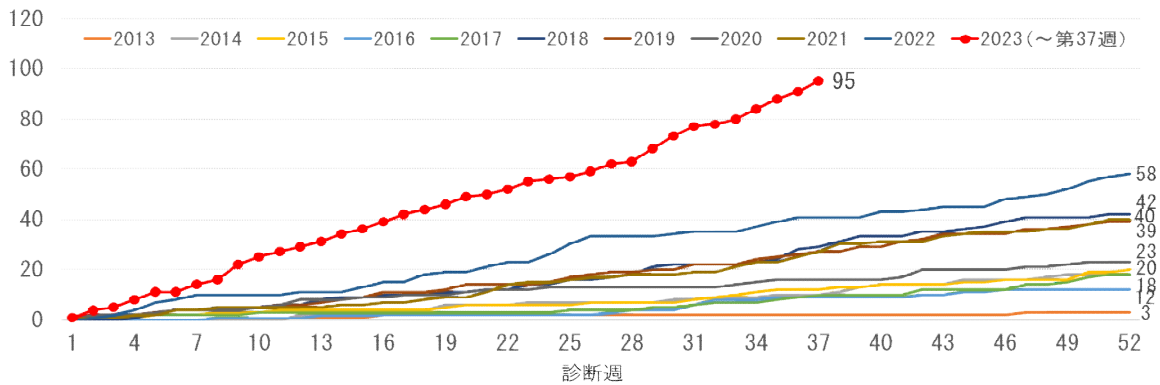
長崎県では2023年第37週までに95件の梅毒の報告があり、過去10年の中で最多であった2022年の58件を上回っています。男性が多く、年代別にみると20代が全体の約半数を占めています。

梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。

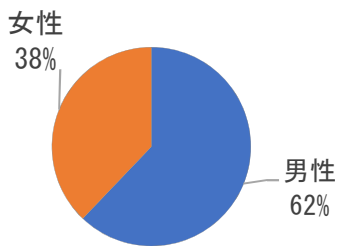
感染後3～6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変（初期硬結、リンパ節腫脹等）、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変（バラ疹や梅毒疹等）や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年～数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けられます（事前の連絡・予約が必要）。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

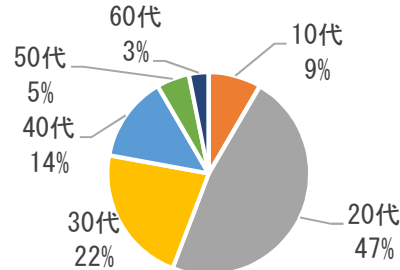
長崎県における診断週別累積患者報告数



梅毒・性別割合



梅毒・年代別割合



★トピックス：9月24日から9月30日は結核予防週間です

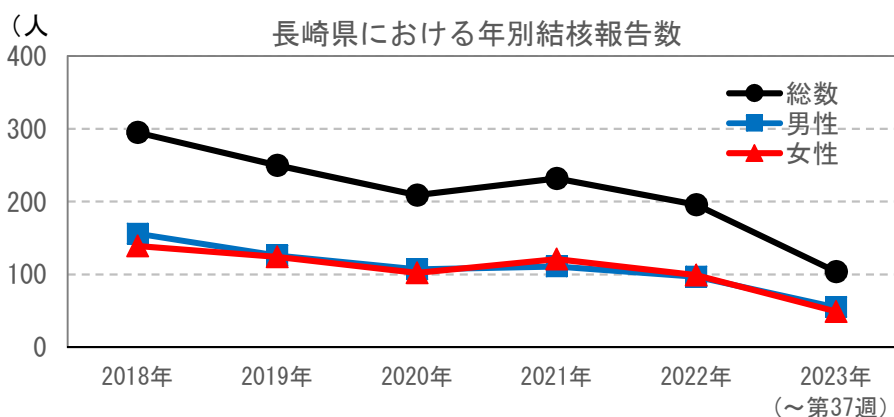
結核は、結核菌の感染により起こる感染症で、多くは肺に炎症を起こします（肺結核）。肺結核の症状は、咳、喀痰、微熱が典型的とされており、胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振等を伴うこともあります。また、肺以外にもリンパ節や骨・関節、腎臓などさまざまな臓器に病変を起こすこともあります。

結核を発症した人がせきやくしゃみをする、飛沫（しぶき）に含まれる結核菌が空気中で飛び散り、それを他の人が吸い込むことにより「感染」します。

長崎県では、人口10万人当たりの結核罹患率が例年全国ワースト10位に入っており、2022年はワースト3位（10.7）でした（全国平均は8.2）。

結核は、早期発見・早期治療が重要です。咳や痰、微熱、体のだるさなどの症状が2週間以上続く場合は、医療機関を受診しましょう。

長崎県における年別結核報告数



☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2023年第37週：9月11日から9月17日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

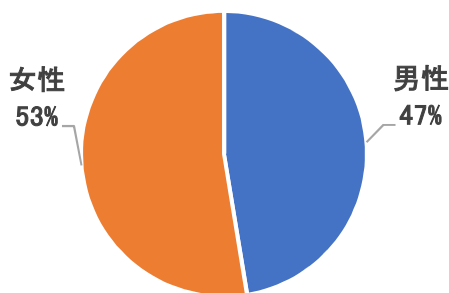
5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

2023年第37週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、前週の「18.24」より減少し、「14.61」でした。年齢別では、10歳未満と10代で約半数を占めています。

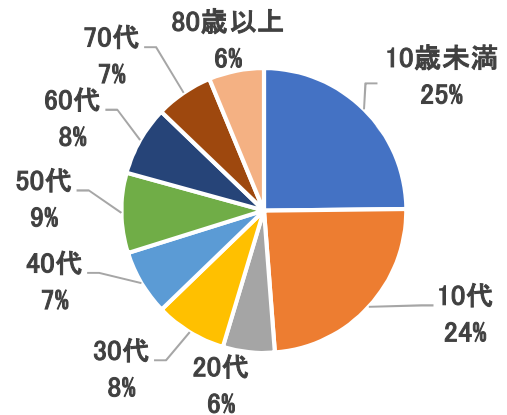
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	1023	194	163	37	212	107	99	60	32	36	83
定点数	70	17	11	6	11	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	14.61	11.41	14.82	6.17	19.27	13.38	24.75	15.00	10.67	12.00	27.67

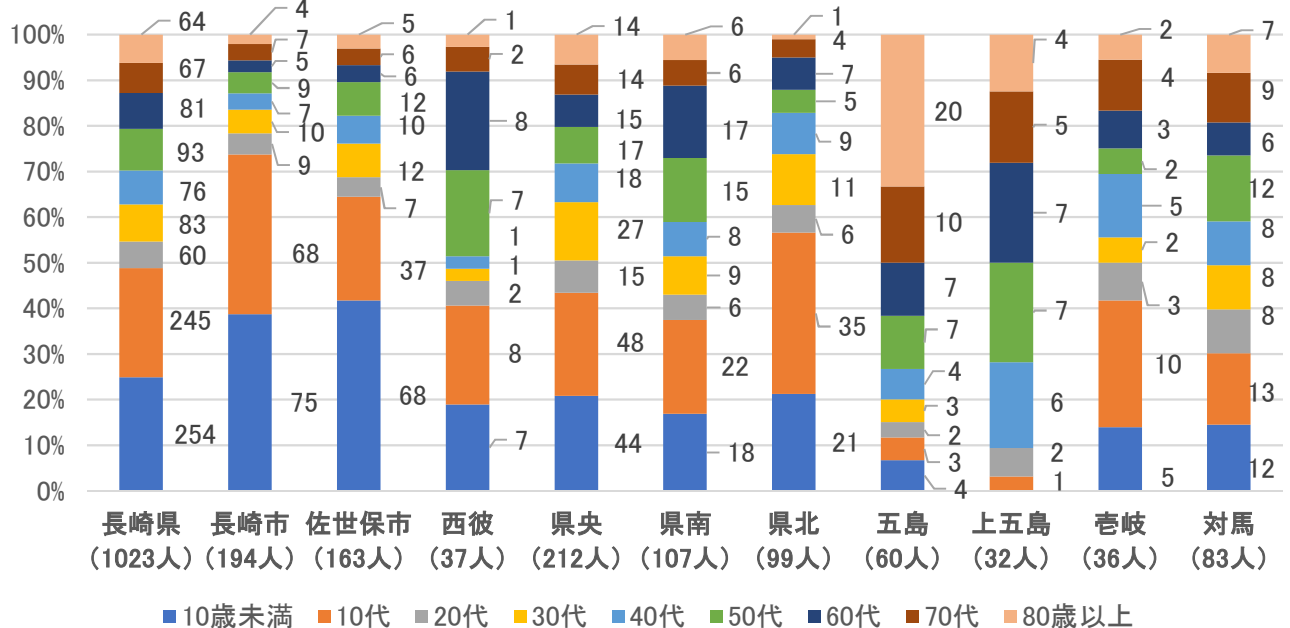
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



※年代別の報告数は、感染症発生動向調査における年齢区分の報告をもとに年代ごとに集計したものです。

◆全数届出の感染症

2類感染症： 結核 患者 男性（20代・1名、70代・1名） 女性（80代以上・1名）
無症状病原体保有者 男性（60代・1名）

3類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 無症状病原体保有者 女性（40代・1名）

4類感染症： レジオネラ症 患者 男性（50代・1名、80代以上・1名） 女性（80代以上・1名）

5類感染症（全数把握対象）： カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 男性（70代・1名）
梅毒 患者 男性（20代・1名、40代・1名、60代・1名） 女性（20代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第32~37週、8/7~9/17)

疾患名	定点当たり患者数					
	32週	33週	34週	35週	36週	37週
	8/7~	8/14~	8/21~	8/28~	9/4~	9/11~
インフルエンザ	2.26	1.44	2.23	3.91	8.80	8.00
新型コロナウイルス感染症	19.96	18.23	19.79	17.97	18.24	14.61
RSウイルス感染症	1.93	0.93	0.98	1.18	0.91	1.09
咽頭結膜熱	0.73	0.66	0.57	1.07	1.73	1.66
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.05	0.89	1.55	1.82	2.23	2.25
感染性胃腸炎	1.66	1.16	1.18	1.95	1.84	1.34
水痘	0.02	0.11	0.11	0.14	0.02	0.16
手足口病	0.98	0.66	1.18	1.68	1.52	2.16
伝染性紅斑（リンゴ病）			0.02			
突発性発しん	0.34	0.18	0.41	0.16	0.34	0.39
ヘルパンギーナ	0.77	0.57	1.09	1.23	0.64	0.70
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02			0.07	0.02	0.05
急性出血性結膜炎			0.25	0.25	0.13	0.38
流行性角結膜炎	0.13	0.38	0.25	0.88	0.75	0.75
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎		0.08		0.08		0.08
マイコプラズマ肺炎				0.08	0.08	
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第37週、9/11~9/17) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	8.00	3.82	5.53		1.17	7.91	21.88	31.75	1.50	0.33	7.00
新型コロナウイルス感染症	14.61	14.82	11.41	12.00	6.17	19.27	13.38	24.75	15.00	10.67	27.67
RSウイルス感染症	1.09	0.33	1.20	0.50	2.75	1.00	1.40	2.33	0.33		
咽頭結膜熱	1.66		3.40		2.50	2.14	0.60				5.50
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.25	2.33	0.50	0.50	2.25	1.00	12.00	0.67			0.50
感染性胃腸炎	1.34	2.00	1.60		0.25	3.00		2.00	0.67	0.50	
水痘	0.16		0.10		0.25	0.71					
手足口病	2.16	5.33	1.70		0.75	2.71	0.40	7.33			
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.39	0.33	0.10		0.50	1.00	0.40	1.00			
ヘルパンギーナ	0.70	0.83	1.20		0.50	0.14	0.20	1.00	2.33		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05		0.10			0.14					
急性出血性結膜炎	0.38						3.00				
流行性角結膜炎	0.75				1.00	1.00	4.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08	1.00									
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											